

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年5月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270400912		
法人名	有限会社サクララン		
事業所名	ひよりの里		
所在地	千葉県千葉市若葉区小倉町875-9 (電話) 043-234-8778		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年5月21日	評価確定日	7月21日

## 【情報提供票より】(19年5月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	専任7人, 兼務1人, 常勤換算5.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	300,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	420 円	昼食	520 円
	夕食	600 円	おやつ	180 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(5月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉台クリニック・泉中央病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

千葉都市モノレール・千城台北駅より徒歩10分、住宅街の中にあり、隣には協力医院がある。ホームの裏には菜園が広がっている。2階建て2ユニットのホームは廊下、居間がゆったりとしており、バリアフリーになっている。居間の広い窓から菜園が見渡せ、日当たりも良く明るい。入居者はソファでくつろいだり、お風呂に入ったり、キッチンで調理の手伝いをしたりと、各々が自由に過ごしている。週に1回はみなで買い物に行き、入居者が好きな食材を選び、メニューを決めている。職員のさりげない介助、見守りのもと、入居者は穏やかで静かな時の流れの中で生活していた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自治会に参加したが、地域活動への参加が出来なく関係作りに苦慮している。居間に入居者の絵を飾り、家具の配置等を工夫して家庭的な雰囲気作りに努めている。職員が見やすい所に緊急時の対応、連絡網を掲示した。研修の情報を掲示するようにし、職員が希望する研修を受けられるよう努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表は社長、ホーム長とで記入した。自己評価を通じてホームの目的の確認、日常のケアの振り返りや課題に気づいていけるよう、職員全員で取り組む事が望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	委員会を立ち上げたが、運営推進会議の開催には至っていない。行政、地域包括支援センターと連携して機能していくよう、働きかけが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を年に3回開催している。また家族の訪問時には担当の職員が話を聞き、意見等把握するよう努めている。今後も、家族の立場に配慮し、意見等言いやすくするような働きかけが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の住民とは挨拶を交わしたり、菜園の作物を頂いたりしている。地域の自治会には加入しているが、老人会の参加や千葉市若葉いきいきプラザの利用ができない現状にある。共に暮らす地域の一員としての地盤を築けるよう、ホームの暮らしを載せた広報誌を配布する等、関係作りを積極的にすすめていける事が必要と思われる。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である、認知症高齢者の福祉増進をホームの理念としている。		グループホーム独自に、家庭的環境や地域連携等を取り入れた理念を作ることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示している。会議等で日常的に話し合わせ、運営に反映するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時に挨拶を交わしたり、周囲の家庭菜園で収穫された野菜をもらったりしている。ボランティアの訪問もある。地域の自治会には加入したが、老人会への参加、公民館の利用については、申し込んでも受入れてもらえない状況にある。		ホームと地域の人とが支えあうような双方向の関係作りを、さらに進めていくことが期待される。
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、改善に向け取り組みがされ、サービスの向上に努めている。しかしながら自己評価は社長とホーム長のみで作成している。		全職員で自己評価に取り組まれることが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催がされていない。自治会長、民生委員等に参加を要請しているが理解を得られていない。		引き続き、行政や地域の人々へ運営推進会議参加の働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉市の介護施設課と権利擁護や事故処理報告等の連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話で情報交換している。月に1度ホーム便りを送っている。いつでも介護日誌やモニタリングシートが閲覧できる。小遣い帳をつけ報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開いている。家族が訪問された時に入居者担当の職員が話しを聞いている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤者の割合を多くし、定着するよう努めている。新しい職員は研修を行ない、慣れてからシフトに入るようにしている。職員が離職する時は入居者への影響が少ないよう配慮している。		
1. 理念と共有					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を掲示し、職員各自で受講を決めている。会議等で研修報告し、内容を共有している。		職員の自主性に任せるのみでなく、ホームが年間研修計画を作り、全職員が力量に応じた研修参加ができるようになると更によいと思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特養・老健・グループホームの施設長で構成された福祉の研究会や、千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を勧める等、納得の上で入居に至るようにしている。在宅の時に関わっていた事業者等から情報を集めたり、家族の話を聞いたりし、安心して入居できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者本人の自発性を尊重し、安全に配慮しながら、家族のような気持ちで接している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望・意向は把握するように努めているが、月1回の外出の計画等、職員が決めることが多い。		入居者の希望や意向を、より一層くみ取るための働きかけやコミュニケーションを工夫することが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに添った個別計画を、入居者本人、家族、看護師らと相談し、ユニット会議を経て作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングを行い、入居者の変化に応じて計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状態に応じた通院・送迎等には、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診したり、訪問診療を受けるなど、入居者の希望に応じて対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者、家族の意向を尊重した対応を心がけている。職員一人ひとりが、重度化や終末期に対してケアの質に差がないように努めている。医療機関との協力体制が取れるように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者に対し、年長者としての誇りを損ねない対応を心がけている。個人情報保護は徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重して、無理強いしないように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回は入居者の希望を取り入れたメニューにしている。入居者は買い物、盛り付けを職員と行っており、同じテーブルを囲み職員と一緒に食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能である。入浴を拒む入居者には、言葉かけなどを工夫してタイミングをとらえ支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	公園散策やドライブ、月に一度の外出等、気晴らしになる支援をしている。皆で一緒に楽しみごとは多いが、一人ひとりの役割作りには至っていない。		皆で行う行事とは別に、入居者一人ひとりの役割作りなどをすると、更に張りのある日々になると思われる。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には、なるべく散歩に出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム開設以来、鍵をかけないケアに取り組んでおり、現在も実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は年2回行っており、訓練の実施日を地域の方にも知らせている。災害時、適切に誘導できるよう繰り返し訓練している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の食材、栄養士の作成した献立を採用している。栄養摂取量や、水分量の一日の記録がされており、介助が必要な場合は支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光はなく、共用の空間は清潔になっている。浴室・トイレは入居者の使用後職員が点検している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品の持ち込みは入居者に任されており、それぞれ使い慣れた品を置いて個性的な部屋作りをしている。		